

30年2月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 2月1日～ 30年2月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/2月	3月	4月
仕入動向	国産材製材品	△ 12.5	△ 6.3	0.0
	外材製材品	△ 31.3	△ 18.8	△ 12.5
	構造用集成材	△ 42.9	△ 21.4	△ 14.3
消費動向	国産材製材品	△ 31.3	△ 6.3	0.0
	外材製材品	△ 93.8	△ 18.8	△ 14.3
	構造用集成材	△ 35.7	△ 28.6	△ 14.3
在庫動向	国産材製材品	△ 25.0	△ 6.3	0.0
	外材製材品	△ 25.0	△ 12.5	△ 12.5
	構造用集成材	△ 28.6	△ 14.3	△ 7.1

・国産材製材品の仕入、消費、在庫動向は2月、3月の減少から4月は横ばいに。

・外材、構造用集成材の仕入、消費、在庫動向は2が3カ月連続減少。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	30/2月	3月	4月
受注	△ 25.0	△ 12.5	△ 6.3
加工	△ 31.3	△ 12.5	△ 6.3
受注残	△ 31.3	△ 25.0	0.0

・プレカット工場の受注、加工動向は3カ月連続減少。

・受注残は2月、3月の減少から4月は横ばいに。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・仕入動向は、外材の急騰に先行き懸念。国産材も追随。消費動向は不需要期。先高を考えて在庫調整。構造用集成材は実績なし。
- ・不需要期のため、国産材以外は仕入を絞る。消費は外材製品から国産材へ樹種変更をかけていきたい。在庫は不需要期であるため外材製品の在庫をもう少し絞っていきたい。
- ・売価になかなか転嫁できず減収減益。

(受注動向)

- ・受注、加工、受注残とも大きな変化なし。
- ・受注残を減らしていくような生産体制をとっていく。
- ・4月から木材への補助金があるため、4月以降は受注が増える。
- ・受注、加工とも動きが悪い。